

第12回 周南市美術展2014 目録

会場 周南市美術博物館

前期 平面・立体 平成26年10月15日(水)～10月19日(日)

後期 書・写真 平成26年10月22日(水)～10月26日(日)

9時30分～17時

市美展大賞・準大賞作品は、前期・後期通じて展示します



市美展大賞 平面 「ぐるぐる・めめめ！」 渡邊 俊行

主催 周南市 周南市教育委員会

主管 周南市美術展運営委員会

後援 周南文化協会

協力 周南書道連盟 周南陶芸連盟 周南美術連盟 周南手工芸連盟 周南水墨画連盟

第12回周南市美術展2014 審査員紹介

平面の部

おおい けんじ
大井 健地（美術評論家） 1947年生

東京芸術大学美術学部芸術学科卒業（日本近代美術史専攻）

筑摩書房編集部勤務のかたわら美術評論執筆、1986年より広島県立美術館学芸員、「鬚光展」、
「浅井忠展」などの企画担当

1994年より広島市立大学国際学部で美術史や博物館資料論などを講義。著書に、『絵のまえ本のうしろ』（溪水社 2012年）、『大井健地の美術図書館』（形文社 1998年）、『鬚光デザイン集』（岩崎美術社 1989年）ほか。共著に『観光コースでない広島』（高文研 2011年）ほか
広島市立大学名誉教授、広島県立図書館友の会会長

おだ よしろう
小田 善郎（画家） 1951年生

福岡教育大学卒業（1975年）

山口県美術展最優秀賞受賞（1987年）、山口県芸術文化振興奨励賞受賞（1988年）、第31回～
32回安井賞展入選（1988年、1989年）、第22回西日本美術展大賞受賞（1989年）、第9回現代
日本絵画展入選（1990年）、第1回青木繁記念大賞展入選（1992年）、第14回青木繁記念大賞
展わだつみ賞受賞（2005年）、第68回山口県美術展覧会大賞（2014年）

英展出品（田川市美術館、1995年）、西日本美術展歴代大賞作品展出品（1997年）

「小田善郎作品展～子ども、そして彼方へ～」(周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館、
2008年)

「東日本大震災復興支援 文化財レスキュー・チャリティ・カレンダー」作品参加（2011年
～2012年）

「小田善郎展」（シロタ画廊、2013年）

「小田善郎展」（Shonandai MY Gallery、2014年）

立体の部

なかむら たかふみ
中村 隆文（東亜大学芸術学部准教授） 1953年生

武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業

第20回 朝日陶芸展 新人奨励賞受賞（1982年）、第13回 バレンシア国際陶磁器・ガラス
デザイン展 グランプリ受賞（1983年）

第3回 朝日現代クラフト展 グランプリ受賞 第5・25回招待出品（1985年）

むらなか やすひこ
村中 保彦（金工作家） 1955年生

東京芸術大学大学院美術研究科鑄金専攻修了

修了制作がサロン・ド・プランタン賞（1982年）、金沢工芸大賞コンペティション大賞
（1993年）、第15回神戸須磨離宮公園現代彫刻展埼玉県立近代美術館賞（1998年）、第18回現
代日本彫刻展山口県立美術館賞（1999年）、桜の森彫刻コンクール優秀賞（2002年）、山口県
芸術文化振興奨励賞（2002年）、UBEビエンナーレ '09山口県立美術館賞（2009年）、第38
回長野市野外彫刻賞（2011年）

「村中保彦金工展一器からオブジェまで」（2009年周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館）

書の部

おか ほうしゅう
岡 蓬舟（書家） 1940年生

山口大学教育学部卒業

西日本書道展山口県知事賞（1967年）、日展入選（1974年）（以後7回）、山口県美展県教育長賞（1976年）、同展優秀賞（1978年）、毎日書道展毎日賞（1980年）、日本書芸院展書芸院大賞（1986年）、山口県芸術文化振興奨励賞（1986年）、第21回国民文化祭美術展書部門審査員（2006年）、山口県文化功労賞（2007年）、山口県選奨（2012年）

現在、読売書法展幹事、日本書芸院展1科審査員、墨滴会常任理事、山口県書道連盟常任顧問

もり てっし
森 哲之（広島文教女子大学准教授） 1969年生

新潟大学大学院教育学研究科修了、専門は書道、書写書道教育学

共著に、『書道特別展 没後100年 中林梧竹展』図録（徳島県立文学書道館 2014年）

展覧会「書のかたち四人展―書の協奏」（福岡市美術館）（2006年）、展覧会「書の空間展」（アクロス福岡）（2007年）、展覧会「旧家に放つ書の空間展」（涛音寮・大分県国東市）（2008年）、第29回国際蘭亭筆会書法展・ドイツ・デュッセルドルフ展「Shu-蹴-」（ドイツ・EKO-Haus）（2013年）

書学書道史学会会員、全国大学書道学会会員、全国大学書写書道教育学会会員、日本蘭亭筆会国際理事

写真の部

くりばやし かずひこ
栗林 和彦（写真家） 1946年生

山口県美術展覧会「県教育長賞受賞」（1974年）、山口県美術展覧会「優秀賞受賞」（1988年）、山口県教育委員会教育功労賞受賞（芸術部門）（1992年）、山口県芸術文化振興奨励賞受賞（1993年）、山口県選奨芸術部門受賞（2006年）

個展「時点」（ギャラリーなかの、1985年）、中国山東省招待（国際平和全国青年撮影大奨作品展覧会、1986年）、サビエルと大内文化写真展（C.S赤れんが、1999年）

ももせ としや
百瀬 俊哉（写真家） 1968年生

九州産業大学芸術研究科修了

第7回コニカ写真奨励賞受賞（1996年）、日本写真協会新人賞受賞（2000年）、第21回土門拳賞受賞（2002年）、福岡県文化賞奨励部門受賞（2010年）、展覧会、写真集多数、最新作は写真集『Land's End North × South』

九州産業大学芸術学部教授

平面	出品数111 (市美展大賞1・市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞22・入選60)		
No.	タイトル	氏名	賞
1	ぐるぐる・めめめ!	渡邊 俊行	市美展大賞
2	子供の惑星	吉田 京子	市美展準大賞
3	金魚・金魚・金魚	河村 祥子	市美展賞
4	旅情	玉野 淑子	市美展賞
5	街	佐藤 ミナエ	市美展賞
6	盛者必衰	林 幸男	市美展賞
7	夏の日	徳原 貴美子	市美展賞
8	古梅燦く	秋貞 啓子	奨励賞
9	里にふる雨	原田 富士子	奨励賞
10	初夏	福田 悦子	奨励賞
11	愛そして	矢田 誠一	奨励賞
12	怒りの聖ゲルオギオス!!	矢田 誠一	奨励賞
13	今日は何の日?	林 邦子	奨励賞
14	泡に群らがる鯉	伊藤 聖士	奨励賞
15	ジャンパー	藤井 美彦	奨励賞
16	藪の中へ・・・	戸村 佳子	奨励賞
17	冬の朝	幸池 慶子	奨励賞
18	あれから3年 (3.11)	後藤 武司	奨励賞
19	幸せのひとつとき	蔵田 省三	奨励賞
20	仲良し	松浦 清子	奨励賞
21	驟雨	津山 義秀	奨励賞
22	石 (いし)	松田 マツエ	奨励賞
23	帰還	玉井 みはる	奨励賞
24	Dressed In Blue	白神 隆	奨励賞
25	秋の棚田風景	竹内 巧	奨励賞
26	水の迷宮 (ヴェネツィア)	大下 ゆり子	奨励賞
27	私の居場所	岩田 キミ	奨励賞
28	静女	河北 律子	奨励賞
29	夏の庭	野村 ヨシ子	奨励賞
30	浮かぶ	石村 健志	
31	spirit in the wood	秋貞 啓子	
32	N B A II	恵村 正昭	
33	西国寺の桜	升 節子	
34	ばくしん	長藤 則男	
35	ぶらり津和乃路	山野井 三郎	
36	黒髪島展望	山野井 三郎	
37	レストラン (ポーランド)	磯辺 亜夫	
38	花菖蒲	由本 正文	
39	目指すものは—	小田 妙美恵	
40	同窓生	原田 勝造	
41	大原湖畔	原田 勝造	
42	明日へ	細山田 洋子	
43	牡丹	福谷 佳子	
44	大津島の春	福谷 佳子	
45	作品 I	津田 鈴子	
46	作品 II	津田 鈴子	
47	For ever	山中 崇子	
48	秋声	吉村 佑一	
49	パワースポット	山縣 道春	
50	春よ来い	藤井 美彦	
51	薫	高橋 敬子	
52	「私の赤ちゃん」	若林 奉之	
53	風景 (ベニス)	松原 セツ子	

54	案山子	松田 真知子	
55	百花繚乱	清水 ミヨコ	
56	浪花野茨	竹中 和之	
57	朝の深浦港	田辺 豊和	
58	山里の風景 (吉和)	田辺 豊和	
59	メルヘンhometown	開南あけぼの園アートリエnon	
60	初夏のマッターホルン	米本 豊弘	
61	外は雨が・・・	米本 豊弘	
62	よろこびの詩 色筆画	秋本 町子	
63	月に還る唄	松浦 寿美子	
64	どこまで続く曼珠沙華	橋野 一枝	
65	瓶鳥	中股 恵子	
66	胡蝶の夢	門出 奈津子	
67	日本の春	永村 善輝	
68	石橋のある風景	高橋 功夫	
69	黄昏	植村 侃司	
70	ランチタイム	中島 悦子	
71	越冬	小西 美佐江	
72	夜神楽 高千穂	久村 ゆかり	
73	幸せの日の1枚から	蔵重 多恵子	
74	晩夏のハーモニー	藤本 怜子	
75	tree	坂本 睦美	
76	ハワイの風に吹かれて	金田 眞知子	
77	Tube Rose	金田 眞知子	
78	ティータイム	竹下 和子	
79	夜景	木村 開	
80	海底	松村 俊孝	
81	弟	村上 知花	
82	ひ・ま・わ・り	刀根 睦代	
83	秋の須佐湾	長澤 静子	
84	招かれた旅人	吉田 裕子	
85	笠戸を望む	管田 八重子	
86	春の日	安本 恵子	
87	花と人形	安澤 幸枝	
88	もりのなかま	安澤 幸枝	
89	夕暮れの秋吉台	山下 行人	

立体 出品数31 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞6・入選13)			
No.	タイトル	氏名	賞
1	黒かいらぎ線文ボウル	國澤 啓	市美展準大賞
2	深海から宇宙へ	中村 達雄	市美展賞
3	千手観音立像	林 敏廣	市美展賞
4	キューケンホフ公園	小浴 洋子	市美展賞
5	地中海	角屋敷 公子	市美展賞
6	夕焼けの冥	小川 操	市美展賞
7	市松文様鉢	山根 公子	奨励賞
8	繁栄と衰退の摩天楼	西尾 司	奨励賞
9	象嵌まる三角文花器	角屋敷 公子	奨励賞
10	晩秋	石光 順一	奨励賞
11	碧空風を誘う	鍛冶原 武	奨励賞
12	扁壺「花燃ゆ」	山本 恵美子	奨励賞
13	深海から天空へ	中村 達雄	
14	祝・三十周年	村上 光子	

15	よそおい	藤井 輝昭	
16	象嵌彩色壺	藤井 輝昭	
17	玉入れ	小林 和子	
18	叫び (口が裂けても言えない2人)	室本 益美	
19	兎の斑の世界	室本 益美	
20	あ～	渡邊 修	
21	カーリング	渡邊 修	
22	咆哮	畑尾 史朗	
23	東雲箱	畑尾 史朗	
24	矢緋刻紋花器	寺田 晃	
25	白糸の瀧	河野 睦美	

書 出品数33 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞6・入選14)			
No.	タイトル	氏名	賞
1	瀬をはやみ・・・	関口 正美	市美展準大賞
2	拳	樽本 充弘	市美展賞
3	辛得源詩	江浪 由恵	市美展賞
4	山にゐて	河村 定子	市美展賞
5	岑參詩	河本 明子	市美展賞
6	兼崎地橙孫の句	中村 まち子	市美展賞
7	拾遺和歌集	小笠原 康子	奨励賞
8	渡り鳥	兼重 博子	奨励賞
9	蘇軾詩	小林 純子	奨励賞
10	清平調詞三首其一	大西 一正	奨励賞
11	廣重	石田 一義	奨励賞
12	春	原田 久美子	奨励賞
13	秋桜	片岡 ヒサ江	
14	孟浩然詩	館林 文子	
15	李白詩	北栄 孝子	
16	鷺草の花	村田 美由紀	
17	「答龐參軍」詩	森表 栄子	
18	想い出	貞久 俊子	
19	島木赤彦の歌	藤井 由希子	
20	陶淵明詩	飯田 邦子	
21	(唐) 王昌齡	杉本 晴美	
22	陶淵明詩	森脇 萬雄	
23	薛稷詩	吉崎 直子	
24	楊萬里詩	管田 志乃芙	
25	俊恵の句	江藤 マサ子	
26	曹全碑	柴田 具子	

写真 出品数103 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞20・入選54)			
No.	タイトル	氏名	賞
1	親子	原田 睦子	市美展準大賞
2	修行僧	大田 美和子	市美展賞
3	アピール	宮崎 紀与二	市美展賞
4	故郷へ向う	飯田 友一	市美展賞
5	ドッキリ カメラ	松田 文夫	市美展賞
6	天上の楽園	小堀 弘	市美展賞
7	光彩	吉原 順子	奨励賞
8	里の水鏡	森藤 茂雄	奨励賞
9	初恋 (ミリンダ、ナマリー)	町田 敏子	奨励賞
10	山門	山田 英敏	奨励賞
11	鷺の舞	立野 智	奨励賞
12	晩秋	山田 正明	奨励賞
13	露	東島 晋	奨励賞
14	生の夢	東島 晋	奨励賞
15	棉毛	尾崎 万寿美	奨励賞
16	秘境の秋	小堀 弘	奨励賞
17	親子	生島 鈴枝	奨励賞
18	秋色讃歌	片山 一美	奨励賞
19	古木の春	藤本 武昭	奨励賞
20	夕刻の風景	木村 直美	奨励賞
21	燃える秋	河村 志津代	奨励賞
22	東京の鳩	出口 幸男	奨励賞
23	スキンシップ	河村 毅麿	奨励賞
24	日常と非日常	橋本 聡	奨励賞
25	心おちつかせて	秋本 ナオミ	奨励賞
26	こっそり練習中	秋本 ナオミ	奨励賞
27	魚を採る人	大田 美和子	
28	灯りのともる頃	坂本 陽一	
29	小狐たち	坂本 陽一	
30	微笑	吉原 順子	
31	グッバイ周南	宮崎 紀与二	
32	親と子の会話	森藤 茂雄	
33	周南コンビナート	平田 武政	
34	里山の春	平田 武政	
35	天空に輝く	手島 信之	
36	宇宙ステーション (時計草)	手島 信之	
37	祭・ランドスケープ	内山 えいじ	
38	稲穂祭りの日	内山 えいじ	
39	ホテルに魅せられて	久原 靖史	
40	大漁祈願	兼重 要	
41	桜のジュータン	檜野皮 毅	
42	富士の裾野	町田 敏子	
43	祭明暗寺	町田 弘	
44	はにかむ少女	大木 洋子	
45	瀑布	大木 洋子	
46	小さな語らい	山田 英敏	
47	雪国の里	飯田 友一	
48	散策	立野 智	
49	二つの太陽	立野 昌子	
50	ドリブルの妙技	片山 孟	
51	ほほえみ	西田 あや子	
52	冬山縦走	溝口 智司	
53	桜花群鳥	友森 久子	

54	秋深し	吉光 佑二	
55	三角帽子のある風景	吉光 佑二	
56	夏の風	松田 文夫	
57	夕暮れの曼珠沙華	藤井 孝子	
58	夜の駅	手嶋 文雄	
59	春の訪れ	手嶋 文雄	
60	小さな家の天使たち	浅原 透	
61	可憐な踊子	弘中 和子	
62	夏の宵	小川 宏	
63	双子の夕日・日本海	小川 宏	
64	朋の晃(perigee full moon)	弘中 秀夫	
65	藍色の空を見上げて	清木 俊邦	
66	ヤマ シャクナゲ	永尾 博美	
67	森の小杉	永尾 博美	
68	周南の街を見守るゆめ風車	塚崎 日出夫	
69	カマキリ	山本 礼之	
70	地球	桑田 昭二	
71	フォルム	山本 由里子	
72	進水式	小川 照彦	
73	まどろむ	山本 章	
74	出発の日	河村 志津代	
75	赤崎まつり	宮本 博恭	
76	山口線沸活の喜び	浜田 心仁	
77	新緑の頃	出口 幸男	
78	優和ちゃん	齋藤 美和	
79	深秋の午後	橋本 聡	
80	雨後の港	小林 武彦	

《全体総括》

市民に親しまれている市民目線の美術展としても12回目です。安定した運営がなされていると感じます。出品作のほうは、毎年どんな作品が出されてくるか予測がつかないわけで、スリリングで新鮮な出会いの楽しみがあります。

大賞候補に推挙された、平面・立体・書・写真の各部門のトップ、4作品が並んだ壁面はとても充実していました。

平面―「ぐるぐる・めめめ！」は現代の得体の知れなさが造形世界のイメージと技法で捉えた力作です。立体―「黒かいらぎ線文ボウル」は焼きものとは思えない、時空を超えた形体で異風であることでも群を抜いています。書―「瀬をはやみ・・・」は流麗でゆかしい。古典教養にひたれる（辞書を引くと、未来は一つと決意する激しい恋の歌なのです）。写真―「親子」は得がたい撮影チャンスのふくろう2羽像。子の白ふくろうって縁がピンクのメガネをかけてるみたいだなあと新発見の思い。

多部門の総合的美術展では、いろいろと多方面に触発されるものです。また、同一部門内でも素材、技法、作品傾向は幅広く、出品者の年齢その他もさまざまだろうと思います。相互により刺激となり、次なる作品づくりの活力を得る場になるでしょうし、観賞者にもさわやかに楽しんでいただける美術展になると確信します。

(大井 健地)

《各部門総括》

平面の部

初めて審査に参加させていただきました。これまでは審査される側として公募展に出品してきました。幸運にも入選や受賞をしたときは大いに喜び、落選したときは審査員の見る目のなさに憤慨したものでした。今回は逆の立場で出品作を審査しなければなりません。それぞれの作品に込められた熱い思いを見逃すまいと、心して作品に向き合いました。特に作品が自ずとこちらに向かって呼びかけてくるものに注意を払いました。

大賞「ぐるぐる・めめめ！」はパワフルでありながら一見工芸的な仕上がりにもみえる実験作、準大賞「子供の惑星」は未来への願いが込められた水彩画です。市美展賞「金魚・金魚・金魚」の提灯の赤い色と夏の夜の思い出、「旅情」のカラフルで思い出の一こま―こまが流れるような風景、おしゃれなパッチワーク「町」のウキウキした気分、「盛者必衰」の誇張された遠近法と色彩対比による迫力、「夏の日」のじっくりと眺めていたい大切なひと時など、どれも作者の思いがしっかりと伝わってくる、構成と技術の巧みさに支えられた見ごたえのある作品でした。

技法では油彩表現が約半数近くでしたが、日本画と同じくらいに水彩画の出品があったことと、その技術の高さに驚きました。また、押し花を使った作品やパッチワーク・切り絵、アクリル・鉛筆・パステル・墨・ペンキ・ペンなど多種多様な技法や材料を工夫しての表現が印象的でした。

小品ながら、どこか懐かしくゆったりとした時間の流れを感じさせる外国風景にはしばし癒されました。

一方でベニヤ板に描かれた肖像の周囲を、木片や布などで囲った作品は、荒削りですが今後の一層の発展を期待して入選としました。

(小田 善郎)

立体の部

数年ぶりに立体部門の審査をさせていただきました。まず選外の作品を選び、後に各賞を選出していきました。作品のレベルは伯仲しており1点ずつ時間をかけて見ていきました。一部の作品について感じたことは、高い技術力をもってはいても、作者らしい表現を感じるどころが弱いと思われる作品や、作者の表現したいものを感じても、その想いを形にする造形力や技術力を磨いてほしいと感じる作品がありました。これらの作品については、次回を楽しみにしています。

この度の出品作品の中にあって、市美展準大賞に選ばれた「黒かいらぎ線文ボウル」はバランスのとれた秀作でした。心に残った作品には、タペストリーの「キューケンホフ公園」、陶器の「市松文様鉢」がありました。

やはり今年も陶芸作品が多く出品されていましたが、他の素材、彫刻的作品など幅広い造形表現の作品に出合えればと思っています。

(村中 保彦)

書の部

書の部作品全般を通して、丁寧な制作であり、熱心に取り組まれ、切磋琢磨された様子が感じられました。作品の種類や傾向にやや似通うところも見受けられましたが、個から発せられる十人十色の表現に今後可能性があるものと思われまます。それぞれの創意工夫や制作意図、主張がもう少し表に出され、作品を生み出す面白みを掴むことができれば、さらに豊かな創造活動となっていくことでしょう。

制作者個々の作品に裏付けられる書の古典や古筆なるものをじっくりと味わい学び追求されると、制作の方向性も見えてきます。鑑賞を深められることによって、創造の種が開花し、そして、個々の感性や情熱が発揮され、作品から訴えかけるもの、心に響くものになっていくものと思われまます。

また、様々な分野の作品から刺激を受け、吸収していくことも有意義なことでしょう。書をはじめ他分野のいい作品に触れ、本物のよさから学ぶことが考えられます。本館で鑑賞できる作品、広く様々な芸術に触れられ、制作に生かしていただきたく思います。今後、益々個性を生かした現代に息づく書の作品が生み出されることを期待しております。

(森 哲之)

写真の部

今回の審査では皆さんが被写体と出会った時の感動をダイレクトに感じる事ができました。特に上位入賞作品からは被写体が持っているインパクトや撮影時の偶然の作用だけでなく、フレーミングやプリント仕上げの美しさまで総合的に仕上げていく技術的な要素や、撮影者それぞれの写真に対する気持ちを感じる事ができました。しかし写真部門全体を俯瞰してみると、人物を捉えたスナップ写真が非常に少なかったことが気になりました。写真は社会と常に関わりながら多様化してきました。写真の記録性という観点からも、日常の人々の姿を写しとることの意義は非常に大きいと私は考えています。近年ではなかなか撮りにくい状況になってはいますが、自分の興味を少し社会と重ねることで、結果的にモチーフのバリエーションが広がっていくということになるのではないのでしょうか。そしてそれら出会った被写体に気持ちを込めて撮影をぜひ続けてほしいと願っています。

(百瀬 俊哉)

《作品講評》

市美展大賞 平面

「ぐるぐる・めめめ！」 渡邊 俊行

インパクトのある大作です。技法も新鮮です。朱・緑・象牙など多彩な色味がほの見えて、しかし全体は張りのある黒一色で統御された空間。不気味な眼の大魚が深い海から近づいてくるのか、自然界の生命力が地下で活動しているのか。漆黒のヌメリのある色面、墨痕を生かした線。焼物の肌のように工芸的な光沢があり凹凸もある画肌。どのような技法によるのでしょうか。



現代の不安や怪奇を、活力を込めて表現しているように思えますが、タイトルの擬音語には作者のユーモア心もうかがえる。深酷なのかトボケなのか、このわからなさが、複雑な現代の反映でもあるようで変にリアルでもある。既成の価値観や因循姑息な分別を逸脱するような、実験的な新型の創造作品の出現がうれしい。

(大井 健地)

市美展準大賞 平面

「子供の惑星」 吉田 京子

最初に目に飛び込んできたのが三匹の猿たち。その向こうの土星の周りには象やシマウマなどの動物と子供たちが浮遊している。遠くには惑星探査機。手前の三匹の猿をよく見るとスマートフォンのようなものを手にしている。ということは、向こうの誰かと話をしているのか。子供たちの未来は、宇宙空間を軽々と移動し動物とも仲良くコミュニケーションをとったりすることができる夢のような世界なのか。いや、ちょっと待てよ。動物や子供たちは幸せそうな表情をしているだろうか。それに浮遊しているのは人間で、猿は荒れた地球にいるようにも見える。・・・など、考えれば考えるほど「子供の惑星」の謎は深まる。



とにかく水彩でこのような大作を描ける力量に感心しました。

(小田 善郎)

市美展準大賞 立体

「黒かいらぎ線文ボウル」

國澤 啓

本作品はやきもの制作における伝統的手法や陶器としての素材感をうまく生かしながら、作者の個性をも伝わってくる立体作品に仕上がっている。簡単に言うならば「陶器のようにではない陶器」そこに表現として面白さを感じる。置かれた時の不安定さはあるものの、天に向かって重力に負けない設置面からの鋭い立ち上がり。それと対比させるような本体胴部の柔らかい曲面状の凹凸の連続性。その曲面を美しく神秘的に見せる艶消し黒の色調と梅華皮状の釉薬（テクスチャ）の調和。なおかつその釉調に抑揚をもたらす横方向に連続させた線刻文様。



遠景からも近景からも見る人の視覚を楽しませ、心地よい空間感を感じさせてくれる。和の空間にも十分調和し、「床」に飾ってみたいと思わせる作品である。

(中村 隆文)

市美展準大賞 書

「瀬をはやみ…」

関口 正美

本展の準大賞は去年と同じく仮名作品に決定しました。

崇徳院の詩「瀬をはやみ岩にせかるるたき川のわれてもすえにあはむとぞ思う」を題材に料紙は全紙でぼかした花柄で金・銀を散らしたうすねずみ色、古典に立脚した自然体で二群が調和よく配字され、その響きあいは審査する者にとって感銘を与え、第一位に決定しました。特に線の潤濁、墨色の美しさ、線の遅速、文字の大小、どの要素も群を抜いています。散らし書きは仮名作品の調和と空間の美しさを盛りあげて、平素の練習の跡が窺え、纏まった作品と言えるでしょう。



審査に際していつも思うことは作者がもっと気楽に書活動に励み、美意識の向上に努めることだと思います。その為にも臨書活動は大切なものです。常日頃の臨書を通して書の真髄にふれ、創作へ向うことこそ高い評価を得る作品になることを信じてやみません。

(岡 篷舟)

市美展準大賞 写真

「親子」

原田 睦子

第12回周南市美術展の審査を初めてさせていただき、とても楽しい時間でした。徳山動物園がある為か動物の写真が多かったと思う中で、“ふくろう”の親子の写真を見るが、最近ではデジタル写真で合成されるものがあり審査員を悩ますが、そうではないと聞き今回の結果となった。自然写真、山岳写真、動物写真があるが、フレーム全体に表現された写真は、構図はバツゲンで、画面右側に配された黒い部分は不明だが、農家の納屋の柱だろうか、自然の樹であろうか審査の場で悩みの1点であった。纯粹に写真を見て作者は望遠レンズを持たれている事で、相当に手練れた鳥の撮影だと思われる。このような場を撮影出来る事は、機材と根気と時間である。雨の日、曇りの日、晴れの日とかあり、その時間でしか表現できないことが写真であるが、写真は見た場の光線とその場の温度もあることを大事にしてほしいと思う。



(栗林 和彦)

周南市美術展運営委員会 委員

- 委員長 藤本 満俊 (陶芸家、周南文化協会陶芸連盟 会長)
河村 純一郎 (洋画家)
小林 功於 (美術作家、元 周南文化協会 美術連盟 代表)
澤田 小恵子 (周南市連合婦人会 会長、徳山女性団体連絡協議会 会長)
原田 洋子 (人権擁護委員)
有田 順一 (周南市美術博物館 館長)

